

ノーリフティングケア2年目の取り組み



看護小規模多機能

しろくま野方

社会福祉法人 白熊会

看護小規模多機能 しろくま野方

「通い」「泊り」「訪問介護」「訪問看護」
を組み合わせ医療ニーズにも対応した在宅サービスを提供

【施設概要】

- 開設 : 令和5年3月
- 定員 : 29名 (宿泊室: 9室)
※登録者数: 18名 (令和7年12月1日現在)
- 平均介護度: 3.64
- 介護職員数: 11名
男性: 5名 女性: 6名

1年目の反省

良かったこと

- フレックスボードの導入で抱えあげの介助が減り負担軽減を体感できた

残った課題

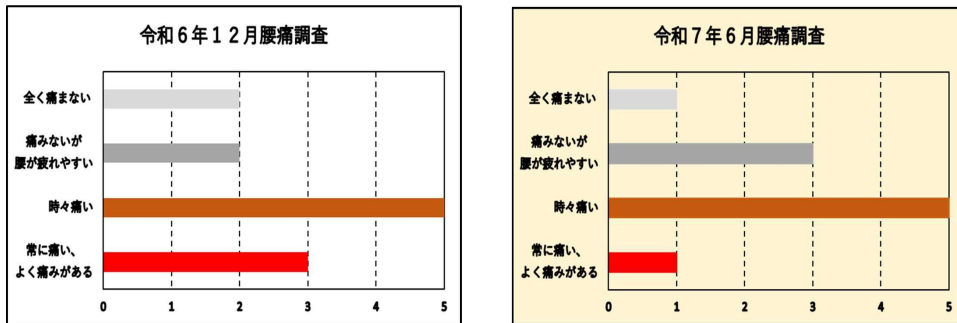
- 腰痛職員は減らず福祉用具の使用方法を周知
- 新規利用者にも抱え上げないケアを早期導入
- 委員会の発信力強化
- 在宅でのノーリフティングケアを支援

2年目の振り返り

効果が分かり易い福祉用具を一気に導入

- ①スライディンググローブを職員全員に配布。
- ②スライディングシートを必要な入居者の居室に設置。
- ③床走行式リフトを導入。
入居者に合わせたスリングシートを購入。
- ④在宅への福祉用具の導入。

腰痛調査の結果



R6.12 → R7.6

常に痛い、よく痛みがある職員数 3名→1名に減少

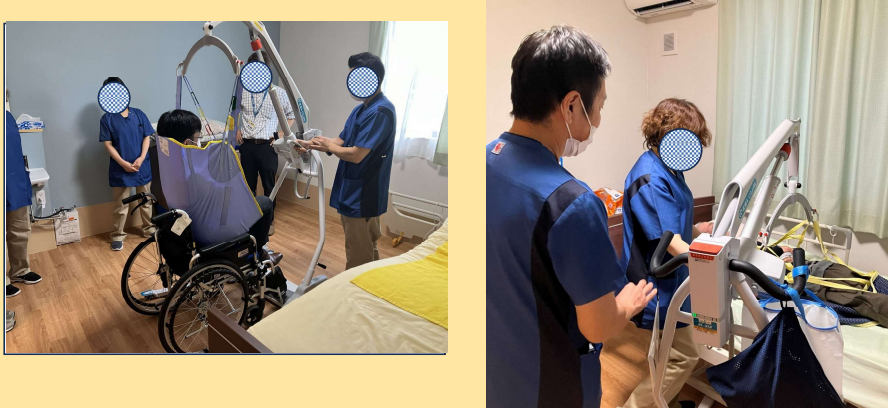
フレックスボードの導入が浸透したことで
負担の大きかった2名での抱え上げ介助が日常的になくなった。

床走行式リフトの導入1



抱え上げて移乗していた入居者3名に対して
走行式リフトの使用を開始

床走行式リフトの導入2



ノーリフティング委員が介護職員に使用
方法の技術指導後に使用を進めた

床走行式リフトの導入3



トイレの訴えのある利用者のトイレ誘導に
ハイバックシートを活用してみた

在宅支援



据置式レール型リフト



フレックスボード・クッション

自宅での移乗に福祉用具を紹介・導入し
ご家族にも使用方法などを支援

職員アンケート①

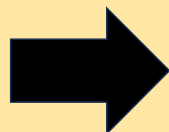
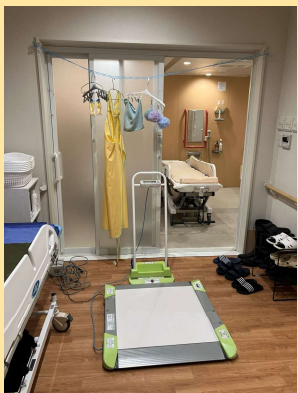
良かったこと

- 床走行式リフト、フレックスボードの導入で抱えあげ介助が減り職員が負担軽減を体感
- スライディングシートを使用してベッド上での移動が楽になった

課題になっていること

- 浴室での移乗、移動が難しいご利用者がいる
- トイレ内での車椅子⇔便座の移乗が難しいご利用者がいる

職員アンケート②



職員アンケート実施後、浴室のラウンドを行い
リフトが使用出来るように物品の配置変更を行った。

今後の課題

残された課題

- 腰痛職員を〇にする為、福祉用具や
走行式リフトの使用状況を把握し使用を促していく
- 新規利用者にも抱え上げないケアを早期導入
- 委員会の発信力強化
- 在宅でのノーリフティングケアを継続支援